

農作物技術情報 第5号 野菜

発行日 平成30年 7月 26日
発行 岩手県、岩手県農作物気象災害防止対策本部
編集 中央農業改良普及センター 県域普及グループ (電話 0197-68-4436)



「いわてアグリベンチャーネット」からご覧になれます
パソコン、携帯電話から「<http://i-agri.net/Index/gate002>」

- ◆ 全般 高温対策としてこまめな灌水管理を行うとともに、作業時は水分補給と休憩をとり熱中症にならないよう気をつけましょう。
- ◆ ハウス果菜類 高温対策、草勢維持、病虫害防除を徹底しましょう。
- ◆ 露地きゅうり 整枝・摘葉と重要病害に対する初期防除を徹底しましょう。
- ◆ ほうれんそう 天候に対応した遮光管理と適切な灌水管理をしましょう。
- ◆ 露地葉茎菜類 適期作業・病虫害防除を徹底しましょう。

1 生育概況

- (1) 雨よけトマトは、県南地域では第10花房前後、県央・県北地域では第8花房前後で開花となっています。高温の影響で、生長点の萎れや葉焼け、上位花房の落花が見られています。病虫害では青枯病、かいよう病等の萎凋性病害が散見されるほか、灰色かび病、アザミウマ類の発生も見られます。
- (2) ピーマンは6月中旬の低温による生育の遅れは回復し、概ね順調な生育となっています。一方で、露地ピーマンは高温乾燥により尻腐果が発生しています。病虫害ではアザミウマ類やヨトウムシ、アブラムシ類等の害虫の発生が広く見られるほか、灰色かび病も多く見られます。
- (3) 促成きゅうりは概ね収穫終盤となり、抑制きゅうりへの切り替えや定植準備が行われています。露地きゅうりは低温の影響による生育の遅れが概ね回復し、収穫量も増加してきております。病虫害ではアブラムシ類やアザミウマ類、ハダニ類等の害虫の発生が広く見られるほか、べと病、うどんこ病、炭疽病等の発生が見られます。
- (4) 雨よけほうれんそうは、概ね順調に生育していますが、排水性の悪い圃場中心に根腐病や生理障害が発生し、軟弱徒長気味に生育している地域もあります。病虫害では、萎凋病やアザミウマ類、ヨトウムシ、ウリハムシモドキ等の発生が見られます。
- (5) キャベツの定植作業は順次行われていますが、生育はやや遅れています。病虫害では、軟腐病や株腐病の腐敗性病害がやや多く、また、べと病、コナガ、タマナギンウワバの発生が見られます。
- (6) レタスの生育は概ね順調です。病虫害では、腐敗病、軟腐病、すそ枯れ病、灰色かび病とウリハムシモドキの発生が見られます。
- (7) ねぎの生育は概ね順調で、夏どり作型の出荷が始まっていますが、葉先枯れが散見されます。病虫害では、白絹病の発生が例年より多く、べと病、葉枯病、ネギコガ、アザミウマ類、ハモグリバエ類等の発生が見られます。

2 技術対策

(1) 全般

現在、非常に暑い日が続いています。今後も高温が続く恐れがありますので、施設野菜では高温対策を徹底するとともに、施設・露地ともこまめな灌水管理や通路散水等により草勢維持を図りましょう。

また、作業も適宜休憩をとり水分補給を十分に行い、熱中症にかからないよう気をつけましょう。

(2) ハウス果菜類の管理

トマト、ピーマンなどのハウス果菜類では最盛期を迎え、生育が旺盛となり、風通しが不良になってきますので、整枝や摘葉、誘引作業を遅れないように実施するとともに、病害虫防除では、くん煙剤の利用など効率的な防除を行います。

高温対策として換気等を積極的に行い、生育適温を超えない範囲でハウス内気温を維持しましょう。夕方には地表面が乾く程度の通路散水を行うことも、ハウス内気温や地温を下げるのに有効です。日中にハウス内気温が十分に下がらないと、夜間の呼吸消耗により草勢低下がさらに助長されるので、暑さが続く場合は高温対策をしっかり行って下さい。なお、収穫量、気象条件などを考慮した追肥方法を選択し、草勢の維持・回復を図り、収穫最盛期を乗り切ります（図1、図2参照）。

また、今後タバコガ類の発生が多くなってきますので、予察情報等を参考に薬剤散布を行うようにしましょう。



図1 追肥方法の種類

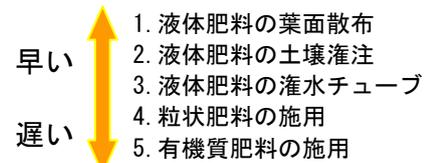


図2 肥料の種類による肥効の早晚

ア 雨よけトマト

桃太郎系品種は、第5～6花房の着果期以降に草勢が低下しやすく、草勢が低下すると回復が難しくなるので、こまめな追肥と灌水で草勢の維持を図りましょう。この時期は、すじ腐れ果、空洞果などの発生が多くなりますが、窒素過多や高温、多湿にならないようにするとともに、肥培管理が重要となります。また、収穫後の花房下の葉は摘葉し、通風を良好にします。

なお、葉かび病抵抗性遺伝子 Cf-9 を有する品種（桃太郎セレクト、CF桃太郎はるかなど）であっても、定期的に防除を行うようにしてください。

また、萎凋性病害も増加傾向です。しおれが発生した場合は最寄りの指導機関に診断を依頼し、原因を特定した上で次年度対策を講じて下さい。

イ ハウスピーマン

収穫の終わった枝や主枝の内側が混み合い光不足になる場合は、不要な枝を摘み内側に光が十分当たるようにします。

また、果肉の薄い品種では特に急激な高温になると尻腐れ果が発生しやすくなるので、ハウスの換気効率を高めるとともに通路やマルチ上にワラを敷いたり灌水を積極的に行うなど、地温を低下させ根からの水分吸収を促進します。

尻腐れ果はカルシウム不足が原因ですが、窒素やカリウム等の肥料成分が濃くなると相対的に

カルシウムの吸収が阻害されますので、暑い時期の追肥は通常よりやや薄い濃度で行うこと、予防的対応としてカルシウム剤の葉面散布等も効果的です。

(3) 露地きゅうりの管理

収穫量の増加に伴い、草勢維持と病虫害の蔓延防止が重要な管理となります。摘葉を基本に整枝は控え目とし、曲がり果や尻太り果などを摘果しつつ、図1を参考にしながら追肥を実施して草勢の維持・回復を図ります。側枝の発生が鈍い場合は、不良果を早めに摘果するとともに強めの整枝を控え、生長点を残して根張りを促進してください。

また、高温乾燥が続くと草勢低下につながりますので、灌水装置を備えている圃場では少量多回数の灌水を基本に、土壌水分の変動を少なくする灌水管理に心がけます。灌水装置がない圃場では敷きわら等で土壌水分の保持を図ります。

摘葉は、主枝葉を中心に病葉、老化葉のほか新しい側枝を覆っている葉を中心に行い、側枝の発生を促します。整枝は、それぞれの仕立て法に応じて行いますが、草勢低下時は半放任または放任管理とします。

薬剤防除は、褐斑病、炭そ病、べと病を重点とし、これら病害に効果のある薬剤を選択して予防散布に努めます。なお、褐斑病や炭そ病の発病が見られた場合は、速やかに病葉を摘葉した後で効果の高い薬剤を選択して散布します。

また、収穫最盛期を迎え曇雨天後に急激な晴天になると「しおれ」症状が発生することが予想されます。病害（ホモプシス根腐病(写真1)、つる枯病等)による場合と生理的な原因による場合がありますので、「しおれ」症状が発生した場合は最寄りの指導機関に診断を依頼してください。



写真1 ホモプシス根腐病によるしおれ

(4) 葉茎菜類の管理

ア 雨よけほうれんそう

曇雨天後の強い日差しにより葉がしおれたり、葉焼けを生じる場合があります。特に生育初期の地際部は高温障害を受けやすいので、遮光資材等を活用しましょう。

また、土壌が乾燥すると、ほうれんそうの生育が停滞するため、播種前の灌水はムラなく行い、圃場の乾燥状態に応じて生育中の灌水を行きましょう。

生育中の灌水を行う場合は、本葉3~4枚以降とし、涼しい時間帯に灌水します(写真2)。ただし、まとまった量の灌水(5~10mm)は収穫3~4日前までとし、その後は土壌表面が湿る(葉水)程度とします。なお、過度の灌水はトロケやべと病の発生を助長するので、注意します。



写真2 本葉3~4枚の状態
灌水を行うならこの時期から

例年、萎凋病等の土壌病害により減収する圃場では、土壌消毒を実施し、生産の安定化を図りましょう。また、萎凋病対策として、耐病性品種や転炉スラグ技術の導入、適正な施肥や良質な有機物の施用、残さの処理等総合的な対策を実施しましょう。

アザミウマ類等の害虫が発生している場合は、効果の高い薬剤で防除を実施しましょう。

イ キャベツ・レタス

気温の上昇に伴い、軟腐病等の腐敗性病害の発生に注意が必要となります。葉の裏や株元まで十分薬液が届くように防除しましょう。

害虫の発生にも注意し、定植時から防除を行いましょう。オオタバコガは特に発生初期ならびに結球始期からの防除を徹底し、また、8月以降の再びヨトウガが発生する時期には、計画的な防除を心がけてください。なお、キャベツでは、圃場をよく観察し、薬剤選択に注意して防除しましょう。

多雨等により圃場に滞水した場合は、畦間の中耕を行って土壌中に空気を送り、根の活性化に努め、必要に応じて液肥を灌注または葉面散布し、草勢回復を促します。

これから収穫する作型では、天候の変動により、裂球や生理障害の発生が多くなりますので、適期収穫に努め、収穫率の低下を防ぎましょう。収穫終了後の圃場はできるだけ速やかに整理し、病害虫の発生源とならないように注意しましょう。

ウ ねぎ

軟腐病、黒斑病等の重点防除時期になるので、収穫前日数に注意しながら定期的に防除を実施しましょう。

土寄せは生育状況や天候を見ながら行い、葉鞘径を肥大させるため、無理な土寄せは行わないようにしましょう。

なお、作型や品種によっては、最終土寄せを行う時期となりますが、最終土寄せ時に丁寧に土入れを行わないと、軟白部と葉の色の境が不鮮明な「ボケ」となりますので、計画的な作業、適期収穫を心がけましょう。

エ アスパラガス

茎枯病や斑点病等の病害やアザミウマ類の発生が懸念されますので、定期的に薬剤防除するとともに、立茎栽培では、株の消耗や茎葉の繁茂を防ぐため、萌芽してくる若茎は弱小茎や曲がった茎も含めて刈り取ります。

促成アスパラガスの伏せ込み用根株への追肥は、生育後半まで肥料が効いている状態では、円滑な養分転流が妨げられる恐れがあるので、8月上旬までには終了させましょう。また、普通栽培・立茎栽培と同様に、病害虫の発生には十分注意し、必要に応じて防除しましょう。

次号は8月30日（木）発行の予定です。気象や作物の生育状況により号外を発行することがあります。

熱中症防止

- 日中の気温の高い時間帯を外して作業を行うとともに、休憩をこまめにとり、作業時間を短くする等作業時間の工夫を行うこと。水分をこまめに摂取し、汗で失われた水分を十分に補給すること。気温が著しく高くなりやすいハウス等の施設内での作業中については、特に注意。
- 帽子の着用や、汗を発散しやすい服装をすること。作業場所には日よけを設ける等できるだけ日陰で作業するように努めること。
- 暑い環境で体調不良の症状がみられたら、すぐに作業を中断するとともに、涼しい環境へ避難し、水分や塩分を補給すること。意識がない場合や自力で水が飲めない場合、応急処置を行っても良くならない場合は、直ちに病院で手当を受けること。

**6月1日～8月31日は
農薬危害防止運動期間です**

- 近隣住民・周辺環境に配慮しましょう
- 農薬散布準備、作業中・後の事故に注意しましょう
- 農薬の保管・管理は適切にしましょう

中央農業改良普及センター・地域農業改良普及センターを通じて農業者に対する支援活動を展開しています。